

礼 拝 順 序

| | | | |
|---|---|----------------------------------|---------|
| 前 | 奏 | | 司 式 |
| 招 | 詞 | | 奏 楽 |
| 讃 | 詠 | 詩編100:1-5 | |
| 交 | 文 | 551 | |
| 誦 | 美 | 交読詩編19 | |
| 聖 | 歌 | 試用版8 | |
| 祈 | 書 | 新約 ルカ 10:25-37 (p. 126 or 146) | |
| 讃 | 禱 | | |
| 説 | 美 | II 18 | |
| 祈 | 教 | 「無力からの出発」 | 小井沼真樹子姉 |
| 讃 | 禱 | | |
| 奉 | 美 | 280 | |
| 主 | 献 | (献金・祈禱) | |
| 頌 | の | (564) | |
| 黙 | 祈 | 545 | |
| 後 | 栄 | | |
| 報 | 禱 | | |
| | 奏 | | |
| | 告 | | |

一 次 週 礼 拝 一

説 教 「知られざる神」
 聖 書 列王記上8:22-32
 使徒 17:16-34
 讃美歌 試用版22 II 157
 350 試用版43

交読文 交読詩編23

一 本 日 の 集 会 一

ティー・タイム
 求道者会 礼拝後 於 談話室
 教会に始めて見えた方、求道者
 (洗礼を受けておられない方)は
 お集まりください。

教会学校夏期キャンプ

28日(土) - 30日(月)

於 劍崎「丸太小屋」

一 今 週 の 集 会 一

野庭苑 訪問

31日(火) 午前10時

祈 禱 会

4日(土) 午後7時半

一 報 告 と お 願 い 一

次主日礼拝後、伝道委員会、定
 例役員会、そして「サーラーの
 家」のための古着バザーをいたし
 ます。

9月19(日)はアジア学院に
 留学している南アフリカ連邦の

テンベカ・ングチングワナ氏が見
 えて礼拝を守ります。午後、中・
 高生徒が中心に「寿町」のため
 のバザーをいたします。ご協力くだ
 さい。

一 集 会 状 況 一

| | | | | |
|---------|------|----|----|----|
| | | 男 | 女 | 計 |
| 主 日 礼 拝 | 8/22 | 27 | 59 | 86 |
| 教 会 学 校 | 8/22 | 7 | 24 | 31 |
| 成 人 科 | 8/22 | 1 | 4 | 5 |

一 牧 師 室 か ら 一

沖縄研修旅行の報告をもう一度
 「違い」ということについて書き
 たい。米軍の艦砲射撃によって緑
 が無くなるほど焼かれ、沖縄県民
 は「ガマ」という自然が作った壕
 に逃げ込んだ。そのガマに案内さ
 れたが、どこに連れて行かれるの
 だろうかと思うほどの藪の中に
 あった。全く観光地化されてな
 い。訪れる人が少ないということ
 である。千人の負傷者を収容した

週 報

1993年8月29日 聖霊降臨節第14主日

巻14 22号

1993年度教会主題

「キリストが私たちの内に形づくられる」

聖句 二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」そして、看守とその家の人たち全部に主の言葉を語った。

使徒言行録 16章31節～32節

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
 2. 教会の組織を再検討し、キリストの体を作る。
 3. 家族こぞって主イエスを賛美する。

日本キリスト教団 横浜港南台教会

〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電話 045-833-5323、045-833-6616

振替 横浜 9-13994

牧 師 秋 吉 隆 雄

というガマは迷路のようになっていて巨大であったが、入口は小さく頭を岩にイヤというほど打った。中は一寸先が見えない真っ暗闇である。後で、涼しく湿っているのでハブがいると聞き、無事を喜び合った。一方、大田実司令官が「沖縄県民斯克戦ヘリ 県民ニ対シ後世特別ノ御高配ヲ賜ランコトヲ」と電報を打って自決した海軍壕は、人工的に掘った立派な壕で、照明も解説も付いて見事に観光地化されている。ただの人の死と偉い人の死の扱いは、こうも「違う」ものかと思った。私はガマを体験することを勧める。

神学校で同級生だった知花真康牧師は、現在首里教会の牧師をしている。彼が子供の時、三百人の村人と一緒に入っていたガマを案内し、説明してくれた。家財道具を運び込み、ガマから学校に通ったという。ここはハワイ帰りの人がアメリカ人のヒューマニズムを語り虐殺はないと説得し、白旗を挙げたので全員助かった。そのガマから1キロも離れていない「チビチリガマ」では、日本軍が中国

で行なった同じ暴行、虐殺を受けると家族同志を殺し合う悲惨な集団自決が行なわれた。目と鼻の先で生と死の明暗がはっきり分れた。この「違い」は過った情報が指導者の判断を狂わせたということである。占領した米軍は沖縄県民に実に優しくったそうである。もちろん、その後の米軍支配と基地のための農地接収には苦しめられ、今尚苦しみ続けている。

伊江島の珊瑚礁の海でシュノーケルを付けて泳ぎ、その美しさに感動した。群れて泳ぐ魚に「一緒に遊んでくれ」と追っかけたが、魚は逃げ回る。あの時ほど疎外感を味わったことはない。私は魚釣りが好きだが、陸の上にいる私は「よし釣ってやるぞ、美味しい魚を食べたい」と水の中にいる魚とは、いわば敵対関係にある。きれいな水の中に共にいると魚とも友達になったような親近感が湧く。「違い」が対立を生じ、「同じ」が和解を生む。人間も同じところに生きてると認識できたら、お互いの関係は全く「違う」ものになるだろう。